底生生物調査結果（個体数）

平成 20年度5月

単位：個体数/0.15m^2（採取方法：A）、個体数/0.12m^2（採取方法：B）

			調査地点	St.5	St.22	St.25	St.35	三枚洲	St.31	葛西沖人工渚	お台場海浜公園	城南大橋	森ヶ崎の鼻		
			採取年月日	5/8	5/8	5/8	5/8	5/7	5/8	5/7	5/7	5/7	5/7		
			天候	曇	晴	曇	晴	晴	曇	晴	晴	晴	晴		
			風向・風速(m/s)	NE・4.7	E・3.0	E・2.7	E・2.5	S・4.0	SE・4.2	S・4.0	S・1.0	S・2.0	S・3.0		
			水温(℃) 上層	18.6	17.8	18.0	18.0	18.1	19.4	24.3	20.6	23.4	23.1		
			下層	16.0	16.0	15.4	15.0	16.6	17.7	－	－	－	－		
			塩分 上層	25.1	15.6	25.1	30.5	23.1	24.8	8.2	25.2	19.5	15.4		
			下層	31.3	31.4	32.4	33.5	30.4	28.6	－	－	－	－		
			DO(mg/L) 上層	6.4	9.0	8.0	8.5	7.0	7.0	7.0	6.6	6.4	6.5		
			下層	4.5	5.5	4.7	2.5	7.5	7.2	－	－	－	－		
			pH 上層	7.7	8.1	8.0	8.2	7.8	7.9	7.7	7.8	7.6	7.4		
			透明度(m)[透視度(cm)]	2.7	3.2	1.7	4.3	1.0	0.5	[14]	[>50]	[>50]	[36]		
			水色(概観)	暗緑色	暗緑色	暗灰黄緑色	暗緑色	暗緑色	暗緑色	暗緑色	暗緑色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色		
No.	門	綱	種名＼採取方法	A	A	A	A	B	A	B	B	B	B	合計	出現頻度
1	刺胞動物	花虫	イソギンチャク目									1		1	1
2	紐形動物		紐形動物門	3	1			5	3		10	2	3	27	7
3	軟体動物	腹足	ウミゴマツボ										6	6	1
4			*Voorwindia* sp.		1									1	1
5		二枚貝	ホトトギスガイ							1				1	1
6			ホンビノスガイ						5				1	6	2
7			アサリ						107	2	4	3	2	118	5
8			シオフキガイ							3				3	1
9			チヨノハナガイ	6				2						8	2
10			シズクガイ	17		1	2	23						43	4
11	環形動物	多毛	*Eteone* sp.										1	1	1
12			マダラサシバ					1	2					3	2
13			アルバチロリ	2		3		3						8	3
14			*Glycinde* sp.			3	1	5						9	3
15			タレメオトヒメコガイ			2	1							3	2
16			クシカギゴカイ	6	2	2	1	36	1					48	6
17			コケゴカイ								1			1	1
18			ヤマトカワゴカイ						12	17			51	80	3
19			アシナガゴカイ								1			1	1
20			オウギゴカイ	4	5	1	1	1						12	5
21			ミナミシロガネゴカイ				1		1					2	2
22			カタマガリギボシイソメ					7						7	1
23			ヨツバネスピオA型					15				4		19	2
24			ヨツバネスピオCⅠ型	1	2	6	3							12	4
25			ヤマトスピオ						1			16	47	64	3
26			イトエラスピオ			5	2							7	2
27			エリタテスピオ					4						4	1
28			トロオニスピオ						10			23	22	55	3
29			ホソエリタテスピオ										247	247	1
30			*Chaetozone* sp.					1						1	1
31			ミズヒキコガイ								3			3	1
32			ツツオオフェリア							3				3	1
33			*Capitella capitata*						1		4	1	10	16	4
34			*Mediomastus* sp.					41				1	4	46	3
35			*Chone* sp.	1				4						5	2
36	節足動物	甲殻	ミツオビクーマ						5					5	1
37			ナナツバコツブムシ							1				1	1
38			ニホンドロソコエビ						3		1			4	2
39			エビジャコ			1								1	1
40			アナジャコ属									1		1	1
41			タカノケフサイソガニ						3			1		4	2
42	棘皮動物	クモヒトデ	クシノハクモヒトデ	1		1		1						3	3

種名及び表記順については「日本海岸動物図鑑」（保育社）に準拠した。
多毛類の和名、学名については「多毛類」、「多毛類Ⅱ」、「多毛類Ⅲ」（生物研究社）の分類に従った。
但し、ヤマトカワゴカイについては最新の論文*1（佐藤ほか、2003）に従った。
その他、「原色日本大型甲殻類図鑑」（保育社）、「新日本動物図鑑」（北隆館）、「日本近海産貝類図鑑」（東海大学出版会）を参照した。

A：スミス・マッキンタイヤ型採泥器
B：エクマンバージ型採泥器

*1：Sato. M, A. Nakashima. 2003. A review of Asia *Hediste* species complex (Nereidididae, Polychaeta) with descriptions of two new species and a redescription of *Hediste japonica* (Izuka, 1908). Zool. Jour. Linnean Soc. 137. 403-445.

底生生物調査結果(湿重量)

平成 20年度5月

単位:g/0.15m^2(採取方法:A)、g/0.12m^2(採取方法:B)

			調査地点	St.5	St.22	St.25	St.35	三枚洲	St.31	葛西沖人工渚	お台場海浜公園	城南大橋	森ヶ崎の鼻		
			採取年月日	5/8	5/8	5/8	5/8	5/7	5/8	5/7	5/7	5/7	5/7		
			天候	曇	晴	曇	晴	晴	曇	晴	晴	晴	晴		
			風向・風速(m/s)	NE・4.7	E・3.0	E・2.7	E・2.5	S・4.0	SE・4.2	S・4.0	S・1.0	S・2.0	S・3.0		
			水温(℃) 上層	18.6	17.8	18.0	18.0	18.1	19.4	24.3	20.6	23.4	23.1		
			下層	16.0	16.0	15.4	15.0	16.6	17.7	−	−	−	−		
			塩分 上層	25.1	15.6	25.1	30.5	23.1	24.8	8.2	25.2	19.5	15.4		
			下層	31.3	31.4	32.4	33.5	30.4	28.6	−	−	−	−		
			DO(mg/L) 上層	6.4	9.0	8.0	8.5	7.0	7.0	7.0	6.6	6.4	6.5		
			下層	4.5	5.5	4.7	2.5	7.5	7.2	−	−	−	−		
			pH 上層	7.7	8.1	8.0	8.2	7.8	7.9	7.7	7.8	7.6	7.4		
			透明度(m)[透視度(cm)]	2.7	3.2	1.7	4.3	1.0	0.5	[14]	[>50]	[>50]	[36]		
			水色(概観)	暗緑色	暗緑色	暗灰黄緑色	暗緑色	暗緑色	暗緑色	暗緑色	暗緑色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色		
No.	門	綱	種名＼採取方法	A	A	A	A	B	A	B	B	B	B	合計	出現頻度
1	刺胞動物	花虫	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目									0.01		0.01	1
2	紐形動物		紐形動物門	0.01	+			0.07	0.02		0.03	0.03	0.08	0.24	7
3	軟体動物	腹足	ｳﾐｺﾞﾏﾂﾎﾞ										0.05	0.05	1
4			*Voorwindia* sp.		+									+	1
5		二枚貝	ﾎﾄﾄｷﾞｽｶﾞｲ							0.01				0.01	1
6			ﾎﾝﾋﾞﾉｽｶﾞｲ						0.03				1.18	1.21	2
7			ｱｻﾘ						3.67	0.01	11.29	0.09	2.49	17.55	5
8			ｼｵﾌｷｶﾞｲ							2.37				2.37	1
9			ﾁｮﾉﾊﾅｶﾞｲ	0.12				0.74						0.86	2
10			ｼｽﾞｸｶﾞｲ	0.46		0.01	0.05	1.08						1.60	4
11	環形動物	多毛	*Eteone* sp.										+	+	1
12			ﾏﾀﾞﾗｻｼﾊﾞ					+	0.01					0.01	2
13			ｱﾙﾊﾞﾁﾛﾘ	0.13		0.12		0.20						0.45	3
14			*Glycinde* sp.			0.08	0.02	0.34						0.44	3
15			ﾀﾚﾒｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ			0.01	+							0.01	2
16			ｸｼｶｷﾞｺﾞｶｲ	0.03	0.01	+	0.01	0.19	+					0.24	6
17			ｺｹｺﾞｶｲ								0.15			0.15	1
18			ﾔﾏﾄｶﾜｺﾞｶｲ						0.09	0.06			0.50	0.65	3
19			ｱｼﾅｶﾞｺﾞｶｲ								0.03			0.03	1
20			ｵｳｷﾞｺﾞｶｲ	4.29	8.85	0.57	2.57	0.76						17.04	5
21			ﾐﾅﾐｼﾛｶﾞﾈｺﾞｶｲ				0.01		0.02					0.03	2
22			ｶﾀﾏｶﾞﾘｷﾞﾎﾞｼｲｿﾒ					0.02						0.02	1
23			ﾖﾂﾊﾞﾈｽﾋﾟｵA型					0.69				0.18		0.87	2
24			ﾖﾂﾊﾞﾈｽﾋﾟｵC Ⅰ型	0.09	0.23	0.47	0.38							1.17	4
25			ﾔﾏﾄｽﾋﾟｵ						+			0.04	0.10	0.14	3
26			ｲﾄｴﾗｽﾋﾟｵ			0.02	+							0.02	2
27			ｴﾘﾀﾃｽﾋﾟｵ					0.01						0.01	1
28			ﾄﾞﾛｵﾆｽﾋﾟｵ						0.02			0.07	0.17	0.26	3
29			ﾎｿｴﾘﾀﾃｽﾋﾟｵ										0.74	0.74	1
30			*Chaetozone* sp.					0.02						0.02	1
31			ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ								0.17			0.17	1
32			ﾂﾂｵｵﾌｪﾘｱ							0.03				0.03	1
33			*Capitella capitata*						+		0.02	+	0.02	0.04	4
34			*Mediomastus* sp.					0.16				+	0.01	0.17	3
35			*Chone* sp.	+				0.10						0.10	2
36	節足動物	甲殻	ﾐﾂｵﾋﾞｸｰﾏ						0.02					0.02	1
37			ﾅﾅﾂﾊﾞｺﾂﾌﾞﾑｼ							0.02				0.02	1
38			ﾆﾎﾝﾄﾞﾛｿｺｴﾋﾞ						0.06		+			0.06	2
39			ｴﾋﾞｼﾞｬｺ			0.03								0.03	1
40			ｱﾅｼﾞｬｺ属									0.01		0.01	1
41			ﾀｶﾉｹﾌｻｲｿｶﾞﾆ						0.54			0.08		0.62	2
42	棘皮動物	ｸﾓﾋﾄﾃﾞ	ｸｼﾉﾊｸﾓﾋﾄﾃﾞ	0.03		0.34		0.14						0.51	3

種名及び表記順については「日本海岸動物図鑑」(保育社)に準拠した。
多毛類の和名、学名については「多毛類」、「多毛類Ⅱ」、「多毛類Ⅲ」(生物研究社)の分類に従った。
但し、ヤマトカワゴカイについては最新の論文*1(佐藤ほか、2003)に従った。
その他、「原色日本大型甲殻類図鑑」(保育社)、「新日本動物図鑑」(北隆館)、「日本近海産貝類図鑑」(東海大学出版会)を参照した。

A:スミス・マッキンタイヤ型採泥器
B:エクマンバージ型採泥器

*1:Sato. M, A. Nakashima. 2003. A review of Asia *Hediste* species complex (Nereidididae, Polychaeta) with descriptions of two new species and a redescription of *Hediste japonica* (Izuka, 1908). Zool. Jour. Linnean Soc. 137. 403-445.

底生生物調査結果（個体数）

平成20年度8月

単位：個体数/0.15m^2（採取方法：A）、個体数/0.12m^2（採取方法：B）

			調査地点		St.5	St.22	St.25	St.35	三枚洲	St.31	葛西沖人工渚	お台場海浜公園	城南大橋	森ヶ崎の鼻		
			採取年月日		8/19	8/25	8/19	8/25	8/18	8/19	8/18	8/18	8/18	8/18		
			天候		曇	雨	曇	雨	晴	晴	晴	曇	曇	晴		
			風向・風速(m/s)		S・13.9	NE・10.1	S・14.9	E・10.0	SE・4.5	S・12.4	SE・4.5	NE・0.5	E・6.0	E・5.0		
			水温(℃)	上層	27.8	25.2	27.3	25.2	28.5	28.3	33.2	27.5	29.1	30.2		
				下層	21.6	20.7	20.6	18.4	27.4	28.0	－	－	－	－		
			塩分	上層	19.9	25.5	25.6	26.1	12.3	8.5	6.2	17.6	13.7	9.9		
				下層	31.7	32.9	32.8	33.8	27.8	21.4	－	－	－	－		
			DO(mg/L)	上層	5.6	7.5	5.7	7.2	5.3	5.1	5.5	6.0	5.3	4.7		
				下層	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	3.9	2.9	－	－	－	－		
			pH	上層	8.2	8.4	8.5	8.5	7.8	7.6	7.5	7.8	7.3	7.0		
			透明度(m)［透視度(cm)］		1.6	2.5	2.0	3.5	1.0	1.3	［15］	［>50］	［>50］	［>50］		
			水色(概観)		暗灰黄緑色	暗緑色	暗灰黄緑色	暗緑色	暗灰黄緑色	灰黄緑色	灰黄色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色		
No.	門	綱	種名＼採取方法		A	A	A	A	B	A	B	B	B	B	合計	出現頻度
1	紐形動物		紐形動物門						4	17					21	2
2	軟体動物	腹足	ｱﾗﾑｼﾛｶﾞｲ							2			2		4	2
3			ｷｾﾜﾀｶﾞｲ							1					1	1
4		二枚貝	ｻﾙﾎﾞｳｶﾞｲ							5					5	1
5			ﾎﾄﾄｷﾞｽｶﾞｲ						1	124					125	2
6			ｺｳﾛｴﾝｶﾜﾋﾊﾞﾘｶﾞｲ										1		1	1
7			ﾎﾝﾋﾞﾉｽｶﾞｲ							9					9	1
8			ｱｻﾘ							302		1	8		311	3
9			ｼｵﾌｷｶﾞｲ							3			108		111	2
10			ﾁｮﾉﾊﾅｶﾞｲ							10					10	1
11			ｼｽﾞｸｶﾞｲ							3					3	1
12			ﾏﾃｶﾞｲ										11		11	1
13	環形動物	多毛	ﾏﾀﾞﾗｻｼﾊﾞ											1	1	1
14			ｱﾙﾊﾞﾁﾛﾘ							2					2	1
15			*Glycinde* sp.						12						12	1
16			ｸｼｶｷﾞｺﾞｶｲ		2				32						34	2
17			ﾔﾏﾄｶﾜｺﾞｶｲ							1	27			244	272	3
18			ｱｼﾅｶﾞｺﾞｶｲ									7	12		19	2
19			ｵｳｷﾞｺﾞｶｲ									1			1	1
20			ﾐﾅﾐｼﾛｶﾞﾈｺﾞｶｲ							24					24	1
21			ｽｺﾞｶｲｲｿﾒ							1					1	1
22			ｶﾀﾏｶﾞﾘｷﾞﾎﾞｼｲｿﾒ		1				52						53	2
23			ｹﾝｻｷｽﾋﾟｵ						4						4	1
24			ﾖﾂﾊﾞﾈｽﾋﾟｵA型		3		1		332	825					1161	4
25			ﾔﾏﾄｽﾋﾟｵ								9			1	10	2
26			ﾄﾞﾛｵﾆｽﾋﾟｵ								33	1	51	32	117	4
27			*Scolelepis* sp.							1					1	1
28			ｱｼﾋﾞｷﾂﾊﾞｻｺﾞｶｲ							2					2	1
29			*Chaetozone* sp.						4						4	1
30			*Mediomastus* sp.			1			8	16	1				26	4
31			ﾁﾏｷｺﾞｶｲ						13						13	1
32	節足動物	甲殻	ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ										1		1	1
33			ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ										7		7	1
34			ｽﾅｳﾐﾅﾅﾌｼ科								1				1	1
35			ﾆﾎﾝﾄﾞﾛｿｺｴﾋﾞ										1		1	1
36			ﾏﾒｺﾌﾞｼｶﾞﾆ										2		2	1

種名及び表記順については「日本海岸動物図鑑」（保育社）に準拠した。
多毛類の和名、学名については「多毛類」、「多毛類Ⅱ」（生物研究社）の分類に従った。
但し、ヤマトカワゴカイについては最新の論文*1（佐藤ほか、2003）に従った。
その他、「原色日本大型甲殻類図鑑」（保育社）、「新日本動物図鑑」（北隆館）、「日本近海産貝類図鑑」（東海大学出版会）を参照した。

A：スミス・マッキンタイヤ型採泥器
B：エクマンバージ型採泥器

*1：Sato. M, A. Nakashima. 2003. A review of Asia Hediste species complex (Nereidididae, Polychaeta) with descriptions of two new species and a redescription of Hediste japonica (Izuka, 1908). Zool. Jour. Linnean Soc. 137. 403-445.

底生生物調査結果（湿重量）

平成20年度8月

単位：g/0.15m^2（採取方法：A）、g/0.12m^2（採取方法：B）

			調査地点	St.5	St.22	St.25	St.35	三枚洲	St.31	葛西沖人工渚	お台場海浜公園	城南大橋	森ヶ崎の鼻		
			採取年月日	8/19	8/25	8/19	8/25	8/18	8/19	8/18	8/18	8/18	8/18		
			天候	曇	雨	曇	雨	晴	晴	晴	曇	曇	晴		
			風向・風速(m/s)	S・13.9	NE・10.1	S・14.9	E・10.0	SE・4.5	S・12.4	SE・4.5	NE・0.5	E・6.0	E・5.0		
			水温(℃) 上層	27.8	25.2	27.3	25.2	28.5	28.3	33.2	27.5	29.1	30.2		
			下層	21.6	20.7	20.6	18.4	27.4	28.0	－	－	－	－		
			塩分 上層	19.9	25.5	25.6	26.1	12.3	8.5	6.2	17.6	13.7	9.9		
			下層	31.7	32.9	32.8	33.8	27.8	21.4	－	－	－	－		
			DO(mg/L) 上層	5.6	7.5	5.7	7.2	5.3	5.1	5.5	6.0	5.3	4.7		
			下層	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	3.9	2.9	－	－	－	－		
			pH 上層	8.2	8.4	8.5	8.5	7.8	7.6	7.5	7.8	7.3	7.0		
			透明度(m)［透視度(cm)］	1.6	2.5	2.0	3.5	1.0	1.3	［15］	［>50］	［>50］	［>50］		
			水色(概観)	暗灰黄緑色	暗緑色	暗灰黄緑色	暗緑色	暗灰黄緑色	灰黄緑色	灰黄色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色		
No.	門	綱	種名＼採取方法	A	A	A	A	B	A	B	B	B	B	合計	出現頻度
1	紐形動物		紐形動物門					0.01	0.03					0.04	2
2	軟体動物	腹足	アラムシロガイ						0.05			0.45		0.50	2
3			キセワタガイ						0.46					0.46	1
4		二枚貝	サルボウガイ						0.31					0.31	1
5			ホトトギスガイ					+	22.03					22.03	2
6			コウロエンカワヒバリガイ									+		+	1
7			ホンビノスガイ						0.11					0.11	1
8			アサリ						36.13		0.83	0.12		37.08	3
9			シオフキガイ						4.96			23.38		28.34	2
10			チヨノハナガイ						1.65					1.65	1
11			シズクガイ						0.08					0.08	1
12			マテガイ									0.32		0.32	1
13	環形動物	多毛	マダラサシハ										0.01	0.01	1
14			アルバチロリ						0.06					0.06	1
15			*Glycinde* sp.					0.06						0.06	1
16			クシカキゴカイ	0.01				0.04						0.05	2
17			ヤマトカワゴカイ						0.05	0.30			20.12	20.47	3
18			アシナガゴカイ								0.05	0.40		0.45	2
19			オウギゴカイ								0.01			0.01	1
20			ミナミシロガネゴカイ						0.06					0.06	1
21			スゴカイイソメ						0.25					0.25	1
22			カタマガリギボシイソメ	+				0.36						0.36	2
23			ケンサキスピオ					0.03						0.03	1
24			ヨツバネスピオA型	0.01		0.01		5.24	11.03					16.29	4
25			ヤマトスピオ							0.08			+	0.08	2
26			ドロオニスピオ							0.21	+	0.26	0.16	0.63	4
27			*Scolelepis* sp.						0.01					0.01	1
28			アシビキツバサゴカイ						0.08					0.08	1
29			*Chaetozone* sp.					0.04						0.04	1
30			*Mediomastus* sp.		+			0.02	0.04	+				0.06	4
31			チマキゴカイ					0.03						0.03	1
32	節足動物	甲殻	タテジマフジツボ									0.20		0.20	1
33			ヨーロッパフジツボ									0.53		0.53	1
34			スナウミナナフシ科							0.01				0.01	1
35			ニホンドロソコエビ									+		+	1
36			マメコブシガニ									0.05		0.05	1

種名及び表記順については「日本海岸動物図鑑」（保育社）に準拠した。
多毛類の和名、学名については「多毛類」、「多毛類Ⅱ」、「多毛類Ⅲ」（生物研究社）の分類に従った。
但し、ヤマトカワゴカイについては最新の論文*1（佐藤ほか、2003）に従った。
その他、「原色日本大型甲殻類図鑑」（保育社）、「新日本動物図鑑」（北隆館）、「日本近海産貝類図鑑」（東海大学出版会）を参照した。

A：スミス・マッキンタイヤ型採泥器
B：エクマンバージ型採泥器

*1：Sato. M, A. Nakashima. 2003. A review of Asia Hediste species complex (Nereidididae, Polychaeta) with descriptions of two new species and a redescription of Hediste japonica (Izuka, 1908). Zool. Jour. Linnean Soc. 137. 403-445.

底生生物調査結果（現場概況）

平成20年度 5月

調査項目 ＼ 調査地点			St.5	St.22	St.25	St.35	三枚洲	St.31	葛西沖人工渚	お台場海浜公園	城南大橋	森ヶ崎の鼻
採取年月日			5/8	5/8	5/8	5/8	5/7	5/8	5/7	5/7	5/7	5/7
採取時刻			16:30～17:05	10:00～10:50	13:00～13:40	11:15～12:25	16:30～17:30	14:30～15:35	15:00～15:50	10:15～11:10	11:50～12:35	12:55～14:00
採取器具			スミスマッキンタイア	スミスマッキンタイア	スミスマッキンタイア	スミスマッキンタイア	エクマンバージ	スミスマッキンタイア	エクマンバージ	エクマンバージ	エクマンバージ	エクマンバージ
天候			曇	晴	曇	晴	晴	曇	晴	晴	晴	晴
雲量			10	2	6	2	3	10	3	0	2	2
気温		(℃)	18.5	21.4	22.5	22.6	22.6	22.1	23.1	23.0	25.8	25.8
風向			NE	E	E	E	S	SE	S	S	S	S
風速		(m/s)	4.7	3.0	2.7	2.5	4.0	4.2	4.0	1.0	2.0	3.0
満潮時間			5:36	5:36	5:36	5:36	5:04	5:36	5:04	5:04	5:04	5:04
満潮潮位		(m)	187	187	187	187	189	187	189	189	189	189
干潮時間			12:50	12:50	12:50	12:50	12:06	12:50	12:06	12:06	12:06	12:06
干潮潮位		(m)	-15	-15	-15	-15	-23	-15	-23	-23	-23	-23
潮差			202	202	202	202	212	202	212	212	212	212
全水深		(m)	10.8	13.6	15.3	24.4	5.1	3.2	A.P. 1.0	A.P. 0.4	A.P. -0.1	A.P. -0.1
透明度		(m)	2.7	3.2	1.7	4.3	1.0	0.5	—	—	—	—
透視度		(cm)	-	-	-	-	—	-	14	＞50	＞50	36
水色		(概観)	暗緑色	暗緑色	暗灰黄緑色	暗緑色	暗緑色	暗緑色	暗緑色	暗緑色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色
		(透明度板)	黄緑色	黄緑色	黄緑色	黄緑色	灰黄緑色	灰黄緑色	-	-	-	-
水温	上	(℃)	18.6	17.8	18.0	18.0	18.1	19.4	24.3	20.6	23.4	23.1
	下	(℃)	16.0	16.0	15.4	15.0	16.6	17.7	-	-	-	-
塩分	上		25.1	15.6	25.1	30.5	23.1	24.8	8.2	25.2	19.5	15.4
	下		31.3	31.4	32.4	33.5	30.4	28.6	-	-	-	-
DO	上	(mg/L)	6.4	9.0	8.0	8.5	7.0	7.0	7.0	6.6	6.4	6.5
		飽和度(%)	81.7	110	98.3	107	85.4	89.0	87.9	85.4	84.3	83.2
	下	(mg/L)	4.5	5.5	4.7	2.5	7.5	7.2	-	-	-	-
pH	上		7.7	8.1	8.0	8.2	7.8	7.9	7.7	7.8	7.6	7.4
臭気	上		無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	下		無	無	無	無	無	無	-	-	-	-
泥状			シルト	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト・細砂	細砂	砂・礫	細砂	細砂
泥臭			中硫化水素	中硫化水素	弱硫化水素	中硫化水素	無	弱硫化水素	無	無	無	無
泥温		(℃)	15.5	17.0	17.1	20.0	17.3	17.8	25.8	23.8	25.5	26.9
泥色			7.5Y3/1	7.5Y2/1	7.5Y3/1	7.5Y2/1	7.5Y3/1	7.5Y3/1	7.5Y3/1	7.5Y3/2	7.5Y3/1	7.5Y3/1
			オリーブ黒	黒	オリーブ黒	黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒
夾雑物			二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻、礫	無	落葉・落枝、二枚貝の殻	無	無	二枚貝の殻、木片	二枚貝の殻
主採取生物			ゴカイ、シズクガイ	ゴカイ	ゴカイ、シズクガイ	ゴカイ	ゴカイ	シズクガイ	シオフキ、ゴカイ	アサリ	ゴカイ	ゴカイ
赤潮の有無			有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)
特記事項						泥温が高いが、採泥から温度測定までに少し時間がかかった為、泥が甲板の熱で暖められた可能性がある。		調査地点近傍の底質はシルト、細砂が不均一に分布している。	波打ち際に稚魚多数。ボラの死骸が多く打ち上げられていた。	1mm以上の礫が多かった。	波打ち際に稚魚多数。	波打ち際に稚魚多数。干出部が非常に広く、水鳥が多くいた。

底生生物調査結果（現場概況）

平成20年度 8月

調査項目 ＼ 調査地点			St.5	St.22	St.25	St.35	三枚洲	St.31	葛西沖人工渚	お台場海浜公園	城南大橋	森ヶ崎の鼻
採取年月日			8/19	8/25	8/19	8/25	8/18	8/19	8/18	8/18	8/18	8/18
採取時刻			9:30～10:15	12:05～12:45	10:40～11:15	10:25～10:35	15:00～16:00	12:20～13:00	14:00～14:25	9:35～10:15	10:50～11:30	11:55～12:35
採取器具			スミスマッキンタイア	スミスマッキンタイア	スミスマッキンタイア	スミスマッキンタイア	エクマンバージ	スミスマッキンタイア	エクマンバージ	エクマンバージ	エクマンバージ	エクマンバージ
天候			曇	雨	曇	雨	晴	晴	晴	曇	曇	晴
雲量			5	10	5	10	3	3	3	8	6	4
気温		(℃)	30.0	27.0	28.5	26.0	31.5	31.5	29.8	27.4	28.5	29.6
風向			S	NE	S	E	SE	S	SE	NE	E	E
風速		(m/s)	13.9	10.1	14.9	10.0	4.5	12.4	4.5	0.5	6.0	5.0
満潮時間			5:57	21:32	5:57	21:32	5:18	5:57	5:18	5:18	5:18	5:18
満潮潮位		(m)	204	170	204	170	204	204	204	204	204	204
干潮時間			12:28	5:06	12:28	5:06	11:58	12:28	11:58	11:58	11:58	11:58
干潮潮位		(m)	37	58	37	58	28	37	28	28	28	28
潮差			167	112	167	112	176	167	176	176	176	176
全水深		(m)	10.8	14.2	16.0	25.3	4.6	3.1	A.P. 0.7	A.P. 0.8	A.P. 0.4	A.P. 0.3
透明度		(m)	1.6	2.5	2.0	3.5	1.0	1.3	—	—	—	—
透視度		(cm)	-	-	-	-	—	-	15	＞50	＞50	＞50
水色		(概観)	暗灰黄緑色	暗緑色	暗灰黄緑色	暗緑色	暗灰黄緑色	灰黄緑色	灰黄色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色
		(透明度板)	黄茶色	黄緑色	黄茶色	黄緑色	黄緑色	黄緑色	-	-	-	-
水温	上	(℃)	27.8	25.2	27.3	25.2	28.5	28.3	33.2	27.5	29.1	30.2
	下	(℃)	21.6	20.7	20.6	18.4	27.4	28.0	-	-	-	-
塩分	上		19.9	25.5	25.6	26.1	12.3	8.5	6.2	17.6	13.7	9.9
	下		31.7	32.9	32.8	33.8	27.8	21.4	-	-	-	-
DO	上	(mg/L)	5.6	7.5	5.7	7.2	5.3	5.1	5.5	6.0	5.3	4.7
		飽和度(%)	80.1	106	82.8	102	73.3	68.4	79.6	84.1	74.7	66.1
	下	(mg/L)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	3.9	2.9	-	-	-	-
pH	上		8.2	8.4	8.5	8.5	7.8	7.6	7.5	7.8	7.3	7.0
臭気	上		無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	下		無	中硫化水素	弱硫化水素	弱硫化水素	無	無	-	-	-	-
泥状			シルト	シルト	シルト	シルト	シルト・細砂	シルト・細砂	細砂	砂・礫	細砂	細砂
泥臭			中硫化水素	強硫化水素	中硫化水素	強硫化水素	無	弱硫化水素	無	無	無	無
泥温		(℃)	21.2	20.2	19.9	19.4	欠測	17.4	35.7	28.1	29.8	34.7
泥色			7.5Y3/1	7.5Y2/1	7.5Y2/1	7.5Y2/1	7.5Y3/1	7.5Y2/1	7.5Y3/1	7.5Y3/2	7.5Y3/1	7.5Y3/1
			オリーブ黒	黒	黒	黒	オリーブ黒	黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒
夾雑物			二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻	落葉・落枝、二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻
主採取生物			ゴカイ	目視で確認できず	目視で確認できず	目視で確認できず	ゴカイ	アサリ、ゴカイ	ゴカイ	アサリ	シオフキ	ゴカイ
赤潮の有無			有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)	有・(無)
特記事項								底質はごく表層のみ酸化。	波打ち際に稚魚多数。水鳥も多くみられた。	1mm以上の礫が多かった。ゴミが漂着していた。	波打ち際に稚魚多数。	波打ち際に稚魚多数。干出部が非常に広く、水鳥が多くみられた。ミズクラゲが干潟に打ち上げられていた。

底生生物調査結果（底質）

平成20年度5月

項目 ＼ 調査地点名		St.5	St.22	St.25	St.35	三枚洲	St.31	葛西沖人工渚	お台場海浜公園	城南大橋	森ヶ崎の鼻
現場測定項目	採取年月日	H20.5.8	H20.5.8	H20.5.8	H20.5.8	H20.5.7	H20.5.8	H20.5.7	H20.5.7	H20.5.7	H20.5.7
	採取時刻	16:30～17:05	10:00～10:50	13:00～13:40	11:15～12:25	16:30～17:30	14:30～15:35	15:00～15:50	10:15～11:10	11:50～12:35	12:55～14:00
	採取器具	スミスマッキンタイア	スミスマッキンタイア	スミスマッキンタイア	スミスマッキンタイア	エクマンバージ	スミスマッキンタイア	エクマンバージ	エクマンバージ	エクマンバージ	エクマンバージ
	水深(m)	10.8	13.6	15.3	24.4	5.1	3.2	A.P. 1.0	A.P. 0.4	A.P. -0.1	A.P. -0.1
	泥温(℃)	15.5	17.0	17.1	20.0	17.3	17.8	25.8	23.8	25.5	26.9
	泥臭	中硫化水素	中硫化水素	弱硫化水素	中硫化水素	無	弱硫化水素	無	無	無	無
	泥色	オリーブ黒	黒	オリーブ黒	黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒
	泥状	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト・細砂	細砂	砂・礫	細砂	細砂
	夾雑物	二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻、礫	無	落葉・落枝、二枚貝の殻	無	無	二枚貝の殻、木片	二枚貝の殻
分析項目	強熱減量(%)	12.1	15.1	14.1	15.5	8.2	3.9	2.6	0.9	2.1	3.5
	全硫化物(mg/g)	0.88	1.03	0.53	1.39	0.13	0.18	<0.01	<0.01	<0.01	0.02
	酸化還元電位(mV)	-58	-177	-99	-150	187	-69	438	490	274	235
	粒度組成　礫分	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0
	粒度組成　砂分	4	1	2	2	49	71	99	63	96	84
	粒度組成　シルト分	72	78	69	55	32	19	0	1	3	11
	粒度組成　粘土分	24	21	29	43	19	10	1	0	1	5
	粒度組成　シルト分＋粘土分	96	99	98	98	51	29	1	1	4	16
	最大粒径(mm)	2.0	0.85	2.0	4.8	2.0	2.0	2.0	9.5	4.8	4.8
	中央粒径(mm)	0.010	0.0094	0.015	0.0060	0.072	0.13	0.19	1.4	0.18	0.14
	均等係数	9.9	5.6	-	-	-	27	1.6	9.8	1.7	3.3
	曲率係数	1.0	2.1	-	-	-	11	0.95	0.89	1.0	1.4
	土粒子の比重	2.42	2.48	2.57	2.47	2.65	2.65	2.68	2.84	2.69	2.67
	乾燥減量(%)	66.3	76.1	69.3	78.7	52.2	41.7	29.2	12.1	25.0	29.1
	COD(mg/g)	27	36	22	31	19	8.5	1.7	<0.5	1.4	5.3
	酸化還元の状態	還元	還元	還元	還元	酸化	還元	酸化	酸化	酸化	酸化
備考	そ の 他				泥温が高いが、採泥から温度測定までに少し時間がかかった為、泥が甲板の熱で暖められた可能性あり。		調査地点近傍の底質はシルト、細砂が不均一に分布している。		1mm以上の礫が多かった。		

底生生物調査結果（底質）

平成20年度8月

項目 ＼ 調査地点名		St.5	St.22	St.25	St.35	三枚洲	St.31	葛西沖人工渚	お台場海浜公園	城南大橋	森ヶ崎の鼻
現場測定項目	採取年月日	H20.8.19	H20.8.25	H20.8.19	H20.8.25	H20.8.18	H20.8.19	H20.8.18	H20.8.18	H20.8.18	H20.8.18
	採取時刻	9:30～10:15	12:05～12:45	10:40～11:15	10:25～10:35	15:00～16:00	12:20～13:00	14:00～14:25	9:35～10:15	10:50～11:30	11:55～12:35
	採取器具	スミスマッキンタイア	スミスマッキンタイア	スミスマッキンタイア	スミスマッキンタイア	エクマンバージ	スミスマッキンタイア	エクマンバージ	エクマンバージ	エクマンバージ	エクマンバージ
	水深(m)	10.8	14.2	16.0	25.3	4.6	3.1	A.P. 0.7	A.P. 0.8	A.P. 0.4	A.P. 0.3
	泥温(℃)	21.2	20.2	19.9	19.4	欠測	17.4	35.7	28.1	29.8	34.7
	泥臭	中硫化水素	強硫化水素	中硫化水素	強硫化水素	無	弱硫化水素	無	無	無	無
	泥色	オリーブ黒	黒	黒	黒	オリーブ黒	黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒
	泥状	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト・細砂	シルト・細砂	細砂	砂・礫	細砂	細砂
	夾雑物	二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻	落葉・落枝、二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻	二枚貝の殻
分析項目	強熱減量(%)	10.4	16.5	13.7	15.7	3.0	6.8	2.6	0.9	2.1	2.9
	全硫化物(mg/g)	0.55	1.35	2.39	1.04	0.13	0.95	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	酸化還元電位(mV)	-146	-199	-176	-158	-147	-66	311	337	309	294
	粒度組成 礫分	0	0	0	0	0	0	0	28	0	0
	粒度組成 砂分	13	0	1	1	88	46	97	71	96	87
	粒度組成 シルト分	66	88	84	86	3	41	1	0	2	8
	粒度組成 粘土分	21	12	15	13	9	13	2	1	2	5
	粒度組成 シルト分＋粘土分	87	100	99	99	12	54	3	1	4	13
	最大粒径(mm)	2.0	0.85	0.25	2.0	2.0	2.0	2.0	9.5	2.0	2.0
	中央粒径(mm)	0.028	0.020	0.013	0.017	0.15	0.068	0.17	1.2	0.17	0.15
	均等係数	21	12	5.7	11	22	36	1.5	7.7	1.8	4.0
	曲率係数	1.4	2.0	3.0	4.2	11	3.1	0.99	0.84	0.94	1.7
	土粒子の比重	2.36	1.85	2.17	1.96	2.62	2.45	2.58	2.74	2.61	2.60
	乾燥減量(%)	64.4	79.8	75.7	77.1	31.5	49.6	30.0	13.6	28.5	29.7
	COD(mg/g)	11	25	23	25	2.6	10	1.4	<0.5	2.9	2.9
	酸化還元の状態	還元	還元	還元	還元	還元	還元	酸化	酸化	酸化	酸化
備考	そ の 他						底質はごく表層のみ酸化。		1mm以上の礫が多かった。		

資料Ⅸ　東京湾における底生生物等による底質評価方法（抜粋）

（平成 11 年 4 月　八都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善部会）

1　底質環境評価部分

東京湾における底質の環境評価区分を表１のとおりとする。

表１　底質環境評価区分

環境評価区分	摘　　要
環境保全度Ⅳ	環境が良好に保全されている。多様な底生生物が生息しており、底質は砂質で、好気的である。
環境保全度Ⅲ	環境は、概ね良好に保全されているが、夏季に底層水の溶存酸素が減少するなど生息環境が一時的に悪化する場合も見られる。
環境保全度Ⅱ	底質の有機汚濁が進んでおり、貧酸素水域になる場合がある。底生生物は、汚濁に耐える種が優占する。
環境保全度Ⅰ	一時的に無酸素水域になり、底質の多くは黒色のヘドロ状である。底生生物は、汚濁に耐える種が中心で種数、個体数ともに少ない。
環境保全度０	溶存酸素はほとんどなく、生物は生息していない。底質は黒色でヘドロ状である。

表２　底質環境評価区分別評点

環境評価区分	評点（合計）
環境保全度Ⅳ	14以上
環境保全度Ⅲ	10～13
環境保全度Ⅱ	6～9
環境保全度Ⅰ	3～5
環境保全度０	0～2

2　評価の方法

各調査地点（水域）の調査結果について、別表の評価項目①から④の評点の合計を算出し、表２に示した底質環境評価区分評点により調査地点の底質の環境を評価区分する。

別表

①	底生生物の総出現種類数		30種以上	20～29種	10から19種	10種未満	無生物
	評点		4	3	2	1	0
②	総出現種類数に占める甲殻類比率		20以上	10～20未満	5から10未満	5未満	0
	評点		4	3	2	1	0
③	底質の有機物	底質の強熱減量（%）	2未満	5未満	10未満	15未満	15以上
		底質のCOD（mg/L）	3未満	15未満	30未満	50未満	50以上
	評点		4	3	2	1	0
④	優占指標生物		A		B	C	
			B,C以外の生物		*Scoletoma longifolia*（カタマガリギボシイソメ）	*Paraprionospio* sp.（typeA）（スピオ科）	
					Raeta pulchellus（チヨノハナガイ）	*Theora fragilis*（シズクガイ）	
					Prionospio pulchra（イトエラスピオ）	*Sigambra phukeyensis*（クシカギゴカイ）	
	上位3種の優占種による評価		上位3種の優占種がB,C以外の生物		A区分、C区分及び無生物区分以外の場合	優占種指標生物Cの生物が2種以上の場合	
	評点		3		2	1	0

1）全体の出現種類数が4種類以下では、甲殻類の比率が大きくても評点は1とする。
2）底質の有機物の評価については、原則として強熱減量を用いるが、これを測定していない場合、底質のCODで評価する。
3）全体の出現種類数が2種類以下の場合は、優占種にかかわらず評点を1とする。

資料Ⅹ　底生生物調査方法

1　調査対象及び調査項目

マクロベントス（種類数、種類別個体数、種類別湿重量）とする。

2　試料の採取方法

原則として、グラブ型採泥器（スミスマッキンタイヤ型、エックマンバージ型など）を用い、1 地点あたりの採取面積を 0.1m² 以上とする。

３　試料の選別方法

採取した試料は1mmメッシュのふるいで選別を行う。採取した底泥を、ふるいに移し船上で海水を注ぎながら、またはふるいより一回り大きな容器中に汲み込んだ海水に浸してふるい、砂泥を洗い落とす。この時、多量の泥を洗うとふるいが目詰まりするので、少量ずつ洗う。

細粒の堆積物は、すぐにふるいの目が詰まるので、手で泥の塊をくずし、よくかき混ぜて泥水にする。粗い堆積物が多い場合は、ふるい分けを行う前に底泥を入れた容器に海水を注ぎ、静かにかき回して上澄みをふるいに流し込む操作を繰り返すことで、小型の生物を損傷させずに分離することができる。

４　試料の保存方法

ふるい上に残った生物を粗粒堆積物や貝殻などの夾雑物とともにサンプル瓶に移す。ふるい上の全ての生物を採取するため、ふるいの網目に引っかかっているものは、海水をかけてサンプル瓶に流し込む。また、網目にからまっているものは、ピンセット等でつまみ、サンプル瓶に移す。この時、生物の体が切れないよう、慎重に取り扱う。

サンプル瓶に中性ホルマリン濃度が10%になるように加えて、固定して保存する。

５　同定、計測方法

（１）　試料の前処理

ホルマリン抜き、洗い出し、仕分けの順に作業を進める。

ア　ホルマリン抜き

ホルマリンが毒物であるという認識のもと、管理者は環境と健康に十分配慮するように努める。なお、作業者は、マスク、ゴム手袋（医療用の薄手のものが作業しやすい。）などを着用することが望ましい。また、作業中は換気に十分注意する。

調査時に使用したものと同じかそれ以下のメッシュのふるい、ホルマリン回収容器、ふるいが入る程度の大きさの底の浅い容器を用意する。

まず、サンプル瓶のホルマリンを、試料中の生物が流出しないように注意しながら、ふるいを通して回収容器中に流し出す。続いて、試料の入ったふるいを水を張った容器に浸して試料中のホルマリンを洗い出す。同作業を水を取り替えながら数回繰り返し、試料中のホルマリンを十分に抜く。

なお、回収したホルマリンは、廃棄物処理業者に委託して処理する等、関係法令を遵守すること。

イ　洗い出し

試料をバケツに移し、水を加えてかき回し、多毛類（環形動物）、小型甲殻類（節足動物）など比重の軽い生物を上澄み中に洗い出す。これを沈まないうちに素早くふるい上に洗い出す。この作業を数回繰り返す。

ウ　仕分け

洗い出しで抽出した試料、残った底質などをそれぞれ底の浅いバットやシャーレなどに移し、軽く水を加える。一般的に抽出した試料には、比重の軽い多毛類（環形動物）や小型甲殻類（節足動物）、残りの底質には主に、二枚貝等軟体動物やクモヒトデ類等棘皮動物などが多く含まれる。

生物の仕分けは、生物が確認できなくなるまで行う。

仕分けした生物は、軟体動物、環形動物、棘皮動物、節足動物、その他の５分類に分けた上で、サンプル瓶に移す。

（２）　同定、計測

同定、計測は、種の同定、種類別の個体数の計数、湿重量の測定の３種類の作業を行う。

仕分けした生物全てについて、実体顕微鏡や、必要に応じて生物顕微鏡を用いて可能な限り種名まで同定するとともに、個体数の計数を行う。個体が破片に分断されている場合は、頭部１個の確認あるいは分類上重要なポイントとなる部位１か所をもって１個体とする。

湿重量の測定は、試料をろ紙上に移し、表面上の水気を軽く除いた後、天秤で測定する。測定単位はｇで表示し、読み取り精度は0.1～0.01g程度とする。測定の際は、生物体の破片も含めて厳密に、種類ごとに選別して計測する。

底生生物調査結果（底生生物写真）

平成20年5月7、8日	
紐形動物門	
－	
紐形動物門	
説明	
体節はなく、滑らかでひも状の体をしている。ヒモムシと俗称される。口の前方に長く吻を延ばし、小動物を捕まえる。	

平成20年5月7、8日	
軟体動物門	
ニマイガイ綱	
ホトトギスガイ	
説明	
殻は横長で、殻表には鳥のホトトギスの胸部に見られるような短い弧状の紫褐色の斑紋がある。日本各地の内湾の砂泥底にて足糸を絡み合わせて大集塊を作り生息する。	

平成20年5月7、8日	
軟体動物門	
ニマイガイ綱	
アサリ	
説明	
よく知られた二枚貝であり、模様は様々、殻表は布目状で後背部はやや粗い。日本全国の淡水の影響のある内湾潮間帯砂泥底に生息する。水産有用種である。	

底生生物調査結果（底生生物写真）

平成20年5月7、8日	
軟体動物門	
ニマイガイ綱	
シオフキ	
説明	
殻は前後に短いハマグリ形。殻は膨らみ丸みがある。幼貝時はバカガイによく似る。房総半島以南～九州まで分布し内湾の砂泥底に生息する。	

平成20年5月7、8日	
環形動物門	
多毛綱	
クシカギゴカイ	
説明	
体長15mm、体前部の体幅約1mm、100剛毛節からなる。体は背腹に扁平で体前部は幅広い、前口葉は台形である。北海道～九州、潮間帯～350m、水深8～20mに生息する。	

平成20年5月7、8日	
環形動物門	
多毛綱	
ヤマトカワゴカイ	
説明	
体長20cm、体幅13mm、体節数90～150。前口葉と体前部の背面はやや黒っぽい。前口葉は長さより幅広く、短い感触手と4個の目がある。日本各地の海岸の河口付近の汽水域で砂泥中に生息する。	

底生生物調査結果（底生生物写真）

平成20年5月7、8日	
環形動物門	
多毛綱	
カタマガリギボシイソメ	
説明	
体長34mm、疣足を含む体幅約1mm、210剛毛節からなる。前口葉はやや扁平な円錐形。後方の疣足の後足葉は細長い指状になりほぼ90度に曲がって前方に向くことが種の特徴となっている。北海道～九州各地の潮間帯～800mまでと広く生息する。	

平成20年5月7、8日	
環形動物門	
多毛綱	
ヨツバネスピオA型	
説明	
日本各地の富栄養な内湾を含む沿岸域から頻繁に記録されており、有機汚濁指標種として位置づけられている。なお本種はシノブハネエラスピオ(*Paraprionospio patiens*)に種名、和名ともに変更された。	

平成20年5月7、8日	
環形動物門	
多毛綱	
ヤマトスピオ	
説明	
体長20mm、疣足を含む体幅0.5mm、80剛毛節内外、前口葉は逆三角形で、前端中央に1個の微小な突起がある。おもに河口付近の汽水域で砂泥中に生息する。	

底生生物調査結果（底生生物写真）

平成20年5月7、8日	
環形動物門	
多毛綱	
ドロオニスピオ	
説明	
体長1～4cm。前口葉先端には二本の角状突起がある。北海道～九州の内湾の干潟や砂浜の水深10m程度までの砂泥底に生息している。	

平成20年5月7、8日	
環形動物門	
多毛綱	
ホソエリタテスピオ	
説明	
体長7mm、体幅0.3mmの糸状で、体節数48。前口葉には4つの眼点が半円状に並ぶ。おもに河口付近の汽水域の砂泥中に生息する。	

平成20年5月7、8日	
環形動物門	
多毛綱	
Mediomastus sp.	
説明	
Mediomastus sp. が属するイトゴカイ科の諸種は底生生物の主要な構成種であり、砂泥中にもぐりこみ粘液の薄い層で棲管を作る。日本各地の沿岸域砂泥底に生息する。	

登録番号21（ 111 ）

平成21年度
環境資料第21065号
環境政策部総務課

平成20年度　東京湾調査結果報告書

編集・発行　東京都環境局自然環境部水環境課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話 03(5388)3459

印刷所　よしみ工産株式会社
〒113-0003 東京都文京区本郷三丁目26番１号
電話 03(5802)5601

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。
古紙パルプ配合率100%再生紙を使用